

活 動 報 告

共同研究奨励助成グループ

「日中関係史の断絶と連続の研究

—— 中国人留学生研究の情報発信源を中心に」

昨年（2013 年度）の活動報告で、留学史に関しては触れていなかったもので、ここにお詫びして、今年度と合わせて報告する（研究会の頭につけた「第〇回」は、従来からの通し番号である）。

第 35 回 2013 年 6 月 22 日 於北京大学

シンポジウム「近代以来中日留学生」学術研討会（北京大学歴史学系・神奈川大学中国人留学生史研究会共催）

- ・ 大里浩秋（神奈川大学）「日華学報和中日関係」
 - ・ 王晓秋（北京大学）「留学生与近代中日文化交流」
 - ・ 王新生（北京大学）「留日学生与早期中国共产党」
 - ・ 孫安石（神奈川大学）「日本人的中国留学 —— 有関北京大興学会」
 - ・ 周一川（日本大学）「中国女子留学生研究動向報告」
 - ・ 徐志民（中国社会科学院）「近代日本对華留日学生政策研究」
 - ・ 王雪萍（東京大学）「戦後日本の中国人留学生和救済金問題」
 - ・ 楊紅軍（北京大学大学院博士課程）「80 年代以来日本留学生政策研究綜述」
 - ・ 見城悌治（千葉大学）「中国人医学留学生和近代日本」
 - ・ 譚皓（北京大学大学院博士課程）「近代日本留華学生研究」
 - ・ 田遠（神奈川大学大学院）「戦後日本和中国留学生学報的問題」
 - ・ 劉千里（北京大学大学院博士課程）「留日学生与中国共产党研究綜述」
- 通訳：胡穎（神奈川大学大学院）、羅敏（北京大学大学院）

第 36 回 中国人留学生史研究会例会

日時：2013 年 7 月 6 日（土） 午後 4 時～7 時

場所：神奈川大学横浜キャンパス 17 号館 216 室

- 報告：(1) 「中国人留学生の予備教育と対支文化事業」 韓立冬（東京大学大学院）
(2) 「大正時代の台湾人の日本留学と早大清国留学生部（1905～10）の資料紹介」
紀旭峯（早大アジア研究機構次席研究員）
(3) 北京会議の報告

第 37 回 中国人留学生史研究会 10 月例会

日時：2013 年 10 月 12 日（土） 午後 4 時～7 時

場所：神奈川大学横浜キャンパス 17 号館 216 室

- 報告：(1) 「『官報』と清末留学生の経費問題 —— 直隸省を事例に」(胡穎，神奈川大学大学院博士課程)
(2) 「東京留学時期の郭沫若 —— 『五校特約』下の中国人留学生生活 —— 」(劉建雲，日本大学非常勤講師)

第38回 2013年12月の例会

日時：12月13日午後3時～6時

場所：東京大学駒場キャンパス 18号館 4階コラボルーム2

◆書評 (1) 孫安石 (神奈川大学) 「呂順長『清末駐日教育文化交流之研究』」

(2) 川尻文彦 (愛知県立大学) 周綿『中国留学生論』

(3) 見城悌治 (千葉大学) 「紀旭峰『大正期台湾人の「日本留学」研究』」

(4) 王雪萍 (東京大学) 「徐一平他『中日教育合作実践と成效研究——以「大平班」和北京日本学研究中心为例』」

◆報告 尾高暁子 (東京藝術大学) 「東京音楽学校と中国人留学生」

◆2015年刊行予定の論文集について。

第39回 シンポジウム「中国人留学生と近代日本」

神奈川大学留学生史研究会・科研基盤研究 (C) 「明治日本の軍隊と近代中国のナショナリズムの形成」
(課題番号 23520871, 代表李曉東) 共催

日時：2014年1月11日 (土曜日)

場所：神奈川大学横浜キャンパス 1号館 804室

「光と影——中日留学生と近代外交」(胡連成, 華僑大学)

「中国人留学生と日本」(大里浩秋, 神奈川大学)

「留日学生派遣のススメ——張之洞の面会者たち」(川崎真美, 中国研究所)

「清末留学生の経費問題——『官報』を素材に」(胡穎, 神奈川大学大学院博士課程)

「青柳篤恒——ある埋没された袁世凱の高級スパイ」(尚小明, 北京大学)

「中国人留日学生と軍国民思想」(李曉東, 島根県立大学)

「近代日本の工芸教育と中国留学生」(見城悌治, 千葉大学)

コメンテーター：孫安石 (神奈川大学), 周一川 (日本大学), 王雪萍 (東京大学)

第40回 2014年4月例会

日時：4月12日 (土) 午後3時～6時

場所：神奈川大学横浜キャンパス 17号館 216室

報告：(1) 「戴季陶の日本留学について」(張玉萍, 東京大学教養学部講師)

(2) 「1942年における新民会留日学生と内原訓練所」(池田健雄, 千葉大学博士2年)

第41回 2014年7月例会

日時：7月5日 (土) 午後3時～6時

場所：神奈川大学・横浜キャンパス 20号館 212室

報告：(1) 「内蒙古の留学生と日本」(田中剛, 神戸大学講師)

(2) 「秋瑾の日本留学——東京実践女学校との関連について」(易恵莉, 華東師範大学教授)

第42回 2014年9月例会——箱根合宿

日時：9月26日 (金) —27日 (土)

場所：神奈川大学・箱根保養所

報告：論文集出版のための予備報告

(1) 大里浩秋「東亜同文会機関誌中の留学関係記事」

- (2) 孫安石「中華民国留日学生監督処初探——1911～1937年」
- (3) 見城悌治（千葉大学）「中国人留学生の工芸・デザイン修学について」
- (4) 周一川（日本大学）「近代中国人留学生統計史料に関する考察——1920～1940年代を中心に」
- (5) 中村みどり（早稲田大学）「陶晶孫と佐藤みさと陶烈のこと」
- (6) 尾高暁子（東京芸大）「中国人留学生と音楽教育——東京音楽学校を中心に」
- (7) 王雪萍（東洋大学）「戦後期日本における中国人留学生・華僑団体の統合と再分裂——留日同学総会、留日華僑総会を中心に」
- (8) 胡穎（神奈川大学大学院）「『官報』と留学生の財政状況——官費生、公費生を中心に」
- (9) 嚴平（中国・人民大学）「戦前期の帝国大学の中国人留学生について」
- (10) 劉建雲（日本大学非常勤講師）「郭沫若三兄弟の日本留学」
- (11) 田中剛（神戸大学講師）「戦後直後の東北・北海道の中国人留学生について」

なお、10月25日日本学で開かれた第64回日本現代中国学会全国学術大会において、日頃留学史研究会に参加している孫安石・見城悌治・胡穎3名が分科会「中国人留学生の管理と支援」で報告した。

現在、上記研究会で報告した内容を中心に、共同研究の成果を人文研叢書の一冊として公刊すべく準備中である。

（文責 大里浩秋）

共同研究奨励金助成グループ

「東アジアにおける民族主義の歴史的体験とその意味
——『プランゲ文庫』を起点に考える」(2013年～2015年)

本共同研究は、「プランゲ文庫と東アジア」(2009年～2012年)の共同研究の第二期事業として継続するものである(以下、プランゲ文庫研究会と略称)。2014年に行われた研究会活動は以下の通りであった。

(一) 2014年4月16日(水) プランゲ文庫研究会の例会

◎日時: 2014年4月16日(水) 午後3時～

◎場所: 17号館 人文学研究所会議室

◎内容

- (1) 愛媛会議の報告(尹健次, 阿部浩己, 泉水英計, 孫安石)
- (2) 2014年度の活動計画——国内外シンポ, 国内外の資料調査
- (3) 例会の日程——報告者, 書籍刊行の件など
(尹健次, 大里浩秋, 阿部浩己, 泉水英計, 孫安石)

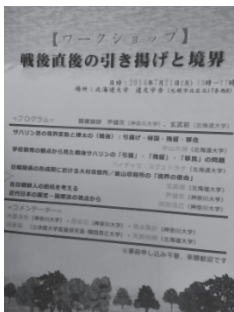
(二) 2014年7月21日, ワークショップ「戦後直後の引き揚げと境界」の開催

◎共催: 北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院, 神奈川大学・プランゲ文庫研究会

◎日時: 2014年7月21日(月) 午後1時～午後5時

◎場所: 北海道大学 遠友学舎(札幌市北区北17条西8)

◎開催挨拶——尹健次(神奈川大学), 玄武岩(北海道大学)



◎報告

- (1) 「学校教育の観点から見た戦後サハリンの『引揚』・『残留』・『移民』の問題」パイチャゼ・スヴェトラナ(北海道大学)
- (2) 「サハリン島の境界変動と樺太の〈戦後〉」中山大将(北海道大学)
- (3) 「大村収容所／釜山収容所の『境界の使命』」玄武岩(北海道大学)
- (4) 「在日朝鮮人の密航を考える」尹健次(神奈川大学)
- (5) 「近代日本の画定——国際法の視点から」阿部浩己(神奈川大学)

◎コメンテーター

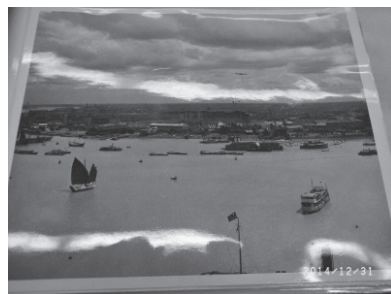
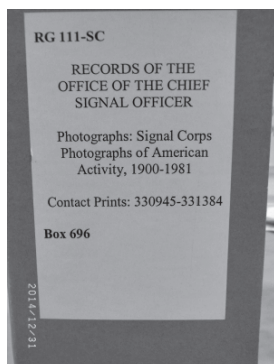
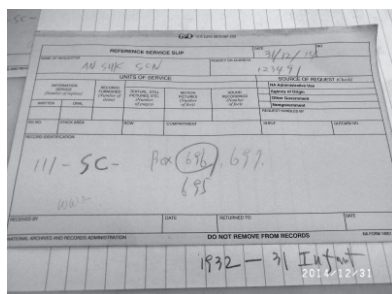
大里浩秋（神奈川大学）・元容鎮（立命館大学客員研究員・韓国西江大学教授）・天野尚樹（北大スラブ・ユーラシア研究センター）、孫安石（神奈川大学）・泉水英計（神奈川大学）

（三） 2015 年 12 月 25 日ー1 月 8 日 アメリカの国立公文書館（NARA）の資料調査

◎日時：2015 年 12 月 25 日ー1 月 8 日

◎場所：アメリカの国立公文書館（NARA）の資料調査

孫安石・小林聡明による調査



◎（RG111-Signal Corps の写真資料を閲覧，申請。Archivist の Eric 氏と Sharon 氏の協力をえる。戦後直後 1945 年 8 月ー9 月 15 日の間の中国関連の航空写真が大量に現在していることを確認し，一部を蒐集した。

（四） 2015 年 3 月 5 日ー8 日，福岡と対馬の資料調査（予定）

◎日時：2015 年 3 月 5 日ー8 日

◎場所：福岡県立図書館，九州大学韓国学研究センターの訪問と書庫調査などを予定（尹健次，大里浩秋，阿部浩己，泉水英計，孫安石）

※本報告は共同研究グループ「プランゲ文庫研究会」の活動報告を兼ねる。

（文責 孫安石）

共同研究グループ活動報告（2014 年度）

日中関係史

今年度は、学内共同研究奨励助成「日中関係史の断絶と連続の研究——中国人留学生研究の情報発信源を中心に」の研究活動と、その成果を人文学研究所叢書の一冊にまとめる準備作業に追われる。

他には、次の講演会を開いた。

10月1日、露木順一氏（本学非常勤講師・前開成町町長）「禹王が切り開く日中和解」

共同研究奨励助成「日中関係史の断絶と連続の研究——中国人留学生研究の情報発信源を中心に」, および「東アジアにおける民族主義の歴史的体験とその意味——『プランゲ文庫』を起点に考える」の活動内容については、それぞれの報告を参照してほしい。

長らく代表を務めた大里は、今期で定年退職となる。これまでの皆さんのご協力に感謝申し上げますとともに、グループの研究がますます活発に展開されることを期待する。

（文責 大里浩秋）

色彩と文化Ⅲ

1. グループ名「色彩と文化Ⅲ」
2. 新メンバー
小林潔氏（青山学院大学非常勤講師）
3. 研究会
2015年2月または3月に開催予定
4. 講演会
 - （1）2014年12月8日（月）
堀見葉子氏（フリーカラーリスト）「色彩を活かす仕事」
 - （2）2014年12月9日（火）
堀見葉子氏（同）「色彩の魅力」
5. 海外調査

2015年3月に予定

6. 出版

三星宗雄『色彩の快：その心理と倫理』, 御茶の水書房

（文責 三星宗雄）

活字文化の研究

1. 共同研究グループ名：活字文化の研究
 2. 講演会・研究会の開催：特になし（適宜、メンバー間での情報共有を行った）
 3. シンポジウムの開催：特になし
 4. 活動内容
 - （1）活字を通じた日本語教育と異文化理解（国際）に関する調査・研究
 - （2）活字文化普及のための教育・啓発活動（教育）に関する調査・研究
- （文責 松本安生）

〈身体〉とジェンダー

本年度は以下の日程で研究会を開催した。
日時：2014年7月2日（水） 13：30～14：30
場所：17-216（人文学研究所資料室）

報告者：ジェームス・ウェルカー准教授
報告タイトル：女（性）の「トランスフィギュレーション（変容・変貌・変化）」——1970～1980年代のトランスナショナルに関わった女たち——

あわせて、上記の報告終了後に、叢書の具体的な構成案や、個々のメンバーの研究の進捗状況などを確認した。叢書は「〈68年〉のジェンダー表象」を共通テーマに、2015年度の出版を目指すことが確認された。今年度は叢書のより具体的な内容について議論し、出版の準備を進める予定である。

（文責 村井まや子）

自然観の東西比較

2014年度の活動は、下記のとおりである。

- ① 公開研究会
日時：11月19日（水）
場所：17-216（人文研資料室）
報告者と報告テーマ
・伊坂青司「C・D・フリードリヒのロマン主義風景画——その風土性・宗教性・政治性——」
・村井まや子「神奈川大学図書館主催「An Enchanted Forest おとぎ話の森」展の概要と展望」（図書館にて展示の見学と解説）
- ② 共同研究グループを母体とした文科省大型設備費「自然観を基礎とした文化の東西比較研究コレクション」の図書の受け入れ
- ③ 共同研究グループを母体とした学内の共同研究奨励の申請とそれに伴うプレゼンテーション
（文責 伊坂青司）

近代都市の表象

1. 共同研究グループ名称：近代都市の表象
2. 講演会・研究会の開催
「〈身体〉とジェンダー」研究グループとの協同により「都市・身体表象の生成とその変容」を主題とする合同講演会・研究会を開催している。同グループの記載と重複するだろうが、開催は以下のとおりである。

研究会：6月24日（火）

発表者：日高昭二

論題：「避暑地の出来事——堀辰雄・軽井沢・リゾート史」

講演会：7月22日（火）

講師：Stamatina Dimakopoulou

論題：「パリのアメリカ人たち——国外在住・共通性・差異」

講演会：7月29日（火）

講師：泉 美知子

論題：「大革命後の宗教建築の表象——19世紀フランスの文化財保護を通して」

研究会：9月23日（火）

発表者：郷 健二

論題：「近代社会の「ファッション」の概念は16世紀イングランドで誕生した？」

研究会：10月28日（火）

発表者：鳥越輝昭

論題：「「ヴィットリアーノ」の外と内——ヴィットリオ・エマヌエーレ2世国立記念堂に見る〈ローマ〉」

研究会：12月16日（火）

発表者：日高昭二

論題：「記憶の地誌／表象の未来——上司小剣『東京』をめぐる」

3. シンポジウムの開催計画

なし

4. 活動内容

近代の東洋・西洋の諸都市の来し方や現況について、表象という切り口から分析を試みている。

数年後に人文学研究叢書を出版することを目標にしている。

（文責 鳥越）

越境する比較文化

1. 研究会等の開催

現時点（1月下旬）で、本共同研究グループが開催した研究会・検討会等は次のようである：

- ① 今年度の国際シンポジウム・国際共同研究プロジェクトのワークショップ（下記2、①参照）に対する反省会、成果考慮会（6月下旬に2回）。
- ② 2015年度に出版される予定の論文集『*Enmity and Death Across Cultures*』（仮）に関する計画検討会・編集準備会（10月中旬と11月上旬、二回）。
- ③ 次年度開催予定の国際シンポジウム（下記2、②参照）に関する計画検討会・実行委員会（9月下旬、10月中旬・下旬、11月中旬、12月

下旬の5回)。

また、②と③に類する会は来る2月、3月中にも数回開く予定である。

2. シンポジウムの開催

① 2014年6月7・8日に、第4回国際シンポジウム「異文化における死の表象」(Fourth International Symposium on Comparative Culture: "Representations of Death across Cultures"), 並びに国際共同研究プロジェクトのワークショップを開催した。

② 2015年6月13・14日に、第5回国際シンポジウム「なんじの敵を知れ——文化研究の観点からみる敵対意識の力学」(Fifth International Symposium on Comparative Culture, "Know Thine Enemy: Cultural Perspectives on Antagonistic Dynamics")を開催する予定である。

3. 活動内容

上記の国際シンポジウム等を以って、国内・国外に向けて、比較文学・文化の方法論を用いた研究を発表・交流するための「場」として、神奈川大学や人文学研究所の知名度を上げ続けることが本共同研究グループの目的の一つであり、その目標に向かって今年度も活動してきた。また、2015年度に出版される予定の論文集(上記1, ②参照)などによって、広い範囲において比較文学・文化の方法に関する意識を深めるといふ、本共同研究グループのもう一つの目的の達成に向かって活動し続ける予定である。

(文責 クリスチャン・ラットクリフ)

ヒト身体の文化的起源

1. 共同研究グループ名: ヒト身体の文化的起源

2. 活動内容

① 人間の身体を系統的に遡り、その根源を考察することで、身体が持つ機能的な意義を検討した。

I. 特に関節運動を増幅するアキレス腱の屈曲点について調査・研究を進めた。研究内容は2014年4月の4th Congress of the International Foot and Ankle Biomechanics Community (韓国・釜山)で「Uncover

the identity of obstruction on the Achilles tendon」と題する一般発表を行った。

II. アキレス腱の機能的意義を調べる一貫として、2015年2月中旬にチェンマイ大学医学部解剖学教室および献体手術研修センターを訪問し、ヒトアキレス腱の物性値を新鮮献体と固定献体で測定評価する予定である。

(文責 衣笠竜太)

帝国とナショナリズムの言説空間

1. 研究会の開催

第1回: 日程: 2014年7月2日(水) 午後4~6時

場所: 17-401号室

(横浜キャンパス・人間科学部社会コース共同研究室)

講師: 久田和孝氏(本学外国語学部助教)

論題: 「現代韓国の「反日」「先進」「文化」を巡る言説空間: 政治学の視点から」

第2回: 日程: 2014年12月3日(水) 午後4~6時

場所: 17-401号室

(横浜キャンパス・人間科学部社会コース共同研究室)

講師: 山本博史氏(本学経済学部教授)

論題: 「タイ、民主主義の「かたち」: 非植民地国家の権力構造への一考察」

2. 活動内容

今年度に採択された神奈川大学共同奨励研究助成金「帝国とナショナリズムの言説空間: 国際比較と相互連携の総合的研究」と同時並行で進めている共同研究グループである。2015年3月中旬には、国立フィリピン大学アジア研究センターから研究者を招聘して学内でセミナーを開催する予定である。

(文責: 永野善子)

NCH 新聞研究会

昨年度より始動した本研究会は、本学が所蔵する NCH (North China Herald) の新聞 (ONLINE 版) の日本、中国、韓国、東南アジア諸国に関連する新聞記事を順次読んで行くことを計画し、6 月には第 1 回の研究会を開催することができた。

1. 第 1 回 NCH (North China Herald) 新聞研究会

日時：2014 年 6 月 4 日 (水)

場所：神奈川大学・横浜キャンパス 17 号館
216 室

報告：

- (1) 研究会の結成について
- (2) オンライン版 中国英字新聞コレクション——「ProQuest Historical Newspapers: Chinese Newspapers Collection 1832-1953」のご利用講習会
 - ・ ProQuest による概要説明 20 分
 - ・ 雄松堂による操作説明 30 分
 - ・ 質疑 10 分

2. 2015 年度にも引き続き、

- (1) NCH 関連の研究会、
- (2) NCH 関連の資料調査——上海、ロンドン、
- (3) NCH の輪読会、を中心に活動して行く。
(文責 孫安石)

講演会要旨

1. 開催日 2014年6月27日
2. 会場 20—119 講堂
3. 講演者 篠山 淳子先生
4. 演題 発達障がいを抱える人たちとのよりよい交流を目指して

ここに居られる方々は、どうしてご自分が「発達障がい」ではなかったのか、と考えたことがおありだろうか？ そのような想像をしてみることは、「障がい」を抱える人たちと接する上で、大切なことではないかと思われる。

「発達障がい」といっても、その程度はさまざまで、連続体をなしている。ほぼ1割の人には、それがあると考えられている。その人たちは、認識や思考の同時統合機能の働きが弱く、部分部分の力はあるのだが、その統合が弱いとされる。

その人たちの診断は3つ（ASD：自閉症スペクトラム障がい、ADHD：注意欠陥多動性障がい、LD：学習障がい）に分かれるが、重なる部分も多い。診断の目的は、治すことにはなく、特性を知って活かすことにある。

また、気をつけなくてはならないのは、「二次障がい」である。これは、本来の特性が原因となって家庭や学校などの環境への不適応を起こした結果生じる様々な症状、またそれに伴う自尊心の低下である。これは、人として誰にでも生じうる状態である。

そのような「障がい」を持つ人たちへの接し方の基本は、その人たちの心の世界やその文化を理解することである。それができなくては、どうしようもない。また、一人ひとりの世界が微妙に違うということにも留意しなくてはならない。これも、どんな人についても言えることである。また、持っている能力、長所を高めるようにかかわることが肝要である。欠点や弱所を治そうとしても、なくなるものではない。

多くの場合に気をつけておくとよいのは、穏やかに話しかけることである。大きな声や早口で言ってしまうと、言われた方は何を言われているか分からず、怒られていると受け取られてしまいかねない。また、周囲が困るようなことがあったときには、本人としては相手の気持ちが分からなかったためのことかも知れないし、気持ちを抑えることができなかったためかも知れないので、それはよくないということを穏やかにはっきりと伝えるのがよい。約束については、それを忘れていないか、直前にこちらから確認しておくといよい。また、忘れにくいように、書いておくといよい。

（文責 下田節夫）

文 献 解 題

『復刻版 近代日本地誌叢書 東京篇 全42巻』

(龍溪書舎編集部編, 龍溪書舎, 平成4年7月～平成5年11月)

本叢書は、明治11(1878)年11月の区郡制改正を中心として、同後期および大正時代にまで及ぶ、東京の生活に関わる資料55点を総集して、それらを原文に忠実な復刻版として刊行されたものである。内容は、町鑑類、繁昌記・案内物、地名・公文書類、散文・作品類からなるが、いずれも稀観書ぞろいである。

たとえば、明治7年刊行の大和屋喜兵衛・源助の『東京開化繁昌誌』をはじめとして、明治31年刊の大橋義一『東京古蹟誌』には、凶悪の賊徒・情死の男女の供養塚も掲載され、また英文による紹介「シティ・オブ・トウキョー」を付した明治34年刊行の上田惟暁『東京名所独案内』などにも目を瞪る。さらに、目黒・渋谷・板橋・すがも・蒲田・八王子などの町誌・郷土史もそれぞれ一巻をなしていて、郊外発展の模様をつぶさに知ることができる。写真・版画などの視覚資料はもとより、各種統計資料、職業一覧、交通図も便利で、明治・大正期の都市東京の姿を知るうえで基礎的な文献と言えよう。

日清・日露の戦争を経て、近代日本の地位が高まるにつれ、パリ・ロンドン・ニューヨークなどの世界の大都市と肩を並べようとする意識の高揚、また修学旅行として東京が対象化されるなかで、二重橋・靖国神社、明治神宮などを媒介にナショナリズムの教育に配慮した東京案内が前景化されるなど、本叢書を読む興味は尽きない。

さらに、この叢書と同時に朝倉治彦・槌田満文監修による『文学地誌「東京」叢書 全12巻』(大空社)も購入した。こちらには、明治7年から14年にかけて刊行された服部誠一『東京新繁昌記』全7冊をはじめとして、明治44年刊行の若月紫蘭『東京年中行事』上下巻や、資生堂化粧品部を発行所として大正10年に刊行された『銀座』などが含まれている。巨大に変貌しつづける東京＝日本の原点を探索し、すでに地上には痕跡をとどめない街・建築・景観の変容をもとにして、まさしく記憶の都市をふりかえる資料であろう。

(日高昭二)

『世界の文字と記号の大図鑑—Unicode 6.0 の全グリフ—』

ヨハネス・ベルガーハウゼン, シリ・ポアランガン (日本版監修 小泉均) 研究社 2014 年 8 月 29 日発行

この図鑑はこの世に現れた文字だけではなく、さまざまな文字+記号の集大成である。副題から分かるように、基本的にはユニコード 6.0 版に収められている文字・記号のコレクションである。ドイツ語の原題は *decodeunicode-Die Schriftzeichen der Welt* であるから「ユニコードのデコード=解説」と言ったところだろうか。1025 ページにわたって、109,242 個の文字・記号の一覧とまだユニコード化されていない (コード番号が付されていない) 書記体系の紹介が含まれている。

文字の形を字体と呼び、字体に一定のスタイルでデザインを施したものを書体 (フォント font) と呼ぶ。字形は JIS によると、「字体を、手書き、印字、画面表示などによって実際に図形として表現したもの」である。また個々の字形 (文字イメージ) をグリフ (glyph) と呼ぶ。したがってフォントが同じでもグリフが同じとは限らない (例 標準体とイタリック体)。一般にフォントはグリフの集合体と考えられる。グリフは文字だけでなく、記号をも指す。本書は正確には、ユニコード化されたグリフの集大成である。ちなみに 1 番目のユニコード文字は文字列制御のためのヌル文字 (U+0000) である。

本書を開いて驚愕すべきは何と言っても漢字の多さである。私たちが普段漢字と言っている文字はユニコードでは CJK (中国語, 日本語, 韓国語の頭文字) と呼ばれる。ハングル文字は別にコード化されている。本書の大半は CJK の一覧である。分類の方法は不明であるが, CJK 統合漢字に 20,940 字, 統合漢字拡張 A には 6,582 字, 統合漢字拡張 B に 42,711 字, 統合漢字拡張 C に 4,149 字, 統合漢字拡張 D に 222 字, 互換漢字に 470 字, 互換漢字補助に 542 字など総計 76,301 字に上る。ハングル文字関連はハングル字母 256 字, ハングル音節文字 11,172 字がコード化されている。漢字・ハングル文字はユニコードの大口消費者である。また面白いところでは私たちが携帯等で良く目にする絵文字にもユニコードが付与されている。点字も例に漏れない。

ユニコードは現在ではメールなどインターネットの文脈で言及されることが多いが、時にはこうした文字や記号を、特に漢字を、形 (デザイン) として眺めてみるのも面白いであろう。

(三星宗雄)

『魯迅藏外国版画全集』（全5巻）李允経，李小山主編
湖南美術出版社 2014年（787mm×1092mm）

魯迅（本名：周樹人 1881～1936）は、近代中国の思想家、文学者であると同時に、中国屈指の版画啓蒙家、収集家でもある。後者としてはあまり日本では知られていないようだ。本書は中国でも初めて出版された魯迅所蔵の版画全集である。この全集の刊行により魯迅コレクションの全貌が見え、美術史関係だけでなく、魯迅の美術に対する考え方、日本を含む世界の芸術家との交流の一端も見えてくる。各巻の内訳は『第1巻 欧米版画卷（上）』、『第2巻 欧米版画卷（下）』、『第3巻 ロシア版画卷』、『第4巻 日本版画卷（上）』、『第5巻 日本版画卷（下）』となっている。収録された全作品は1677点である。世界14か国251名の画家の内、日本人版画家は138名含まれている。その中には、若き頃の石井鶴三、恩地孝四郎、関野準一郎、田辺至、永瀬義郎、前川千帆、棟方志功など後に昭和時代の日本を代表する版画家たちがほとんど網羅されている。美術史資料としてだけでなく、文化交流史研究の資料としても活用されることが期待される。



「ドイツの子供達が飢えている」
（リトグラフ）Kathe Kollwitz
北京魯迅博物館蔵



「開港偶人」（木版）
加藤悌
北京魯迅博物館蔵



「チェーホフ像」（木版）
Павел Яковлевич Павлинов
上海魯迅記念館蔵

（彭国躍）

所 員 自 著 紹 介

1. 『色彩の快—その心理と倫理—』
2. 三星宗雄
3. 御茶の水書房
4. 2014 年 3 月 31 日発行
5. 318 ページ

本書の構成は以下のようになっている。内容は大きく「遠感覚と近感覚」, 「色彩地理学」および「色彩倫理学」に分けることができる。感覚を環境の中の遠方の情報をもたらす遠感覚（視覚, 聴覚）とごく近辺の情報をもたらす近感覚（触覚, 味覚）に分ける二分法は現在特別に注目を集めているわけではない。しかし進化の過程で備わった順番やその本来の機能および感情（快不快）との結びつきなど際立った違いがある。第 1 章ではそうした違いからさまざまな感覚・知覚の現象を再検討することの可能性を論じた。

「色彩地理学」では文字通り色彩の現象を地理学的見地から解釈することの意義を, また「色彩倫理学」では, 騒色公害など環境色彩の問題は, 1 つの倫理学であるとの視点に立って, その実態および解決策について論じた。

まえがき

第 1 章 色の感覚は遠感覚

第 1 節 遠感覚と近感覚

第 2 節 視覚的欲求と視覚的快適性

第 3 節 形と運動と色のイメージ

第 4 節 色弱模擬フィルターを通した色彩感情

第 2 章 色の力・明るさの力

第 3 章 美と調和の間: Moon & Spencer の色彩調和論における 2, 3 の問題

第 4 章 色彩の地理学

第 1 節 色彩地理学の可能性

第 2 節 公衆トイレのアンソロポロジー

第 3 節 沖縄の色

第 4 節 韓国色彩事情

第 5 節 アマゾン・メモー色彩・環境・熱帯雨

林一

第 6 節 アマゾンの色彩: その測色学的研究

第 5 章 色彩の倫理学

第 1 節 日本における騒色公害の系譜と景観問題

第 2 節 風景の中の自販機

第 3 節 ユニバーサルデザインはどこにある

第 4 節 カラーユニバーサルデザインの実現に向けて

(三星宗雄)

1. 書名: 『先住民運動と多民族国家——エクアドルの事例研究を中心に』
2. 著者: 新木秀和
3. 御茶の水書房
4. 出版年月: 2014 年 3 月
5. ページ数: 全 350 頁 (xi + 337 頁)

現代世界では民族運動と国家の変容過程は密接に関連して展開する。1990 年代以降ラテンアメリカでは, アンデスやメソアメリカを中心に先住民運動が活発化するとともに, ボリビアやエクアドルなどでは多民族国家形成への志向が強まっており, それらの動向は社会運動や国家のあり方をめぐる議論に刺激を与えてきた。

本書は, 先住民運動の展開と多民族国家形成の関係を, エクアドルの事例を中心に多角的に分析したものである。第 I 部と第 II 部では, 先住民運動の形成と展開をエクアドル現代史との関連で詳述し, 多民族国家の形成と関連づけて論じている。そのため, 運動諸組織が提起する多民族国家思想の動向に着目し, 主体となる組織や活動家の詳細なデータを整理しつつ相関関係を提示した。また, 多民族国家の視覚的表象として先住民地図や人口センサスなどにも目配りすることで総合的な分析を行った。第 III 部では, エクアドルの事例分析を現代世界とくにラテンアメリカの域内状況との関連で位置づけ, 社会運動論や国家論などの

理論面での考察も試みている。

人文学研究叢書 34 として刊行された本書は、個人の研究書としては最初の 2 冊のひとつである。貴重な機会を与えていただいた関係者にこの場をかりてお礼を述べたい。

(新木秀和)

1. 書名：*Reinventing Citizenship: Black Los Angeles, Korean Kawasaki, and Community Participation*
2. 著者：Tsuchiya, Kazuyo
3. 出版地・出版社：Minneapolis: University of Minnesota Press
4. 出版年月：April, 2014
5. 頁数：280 頁

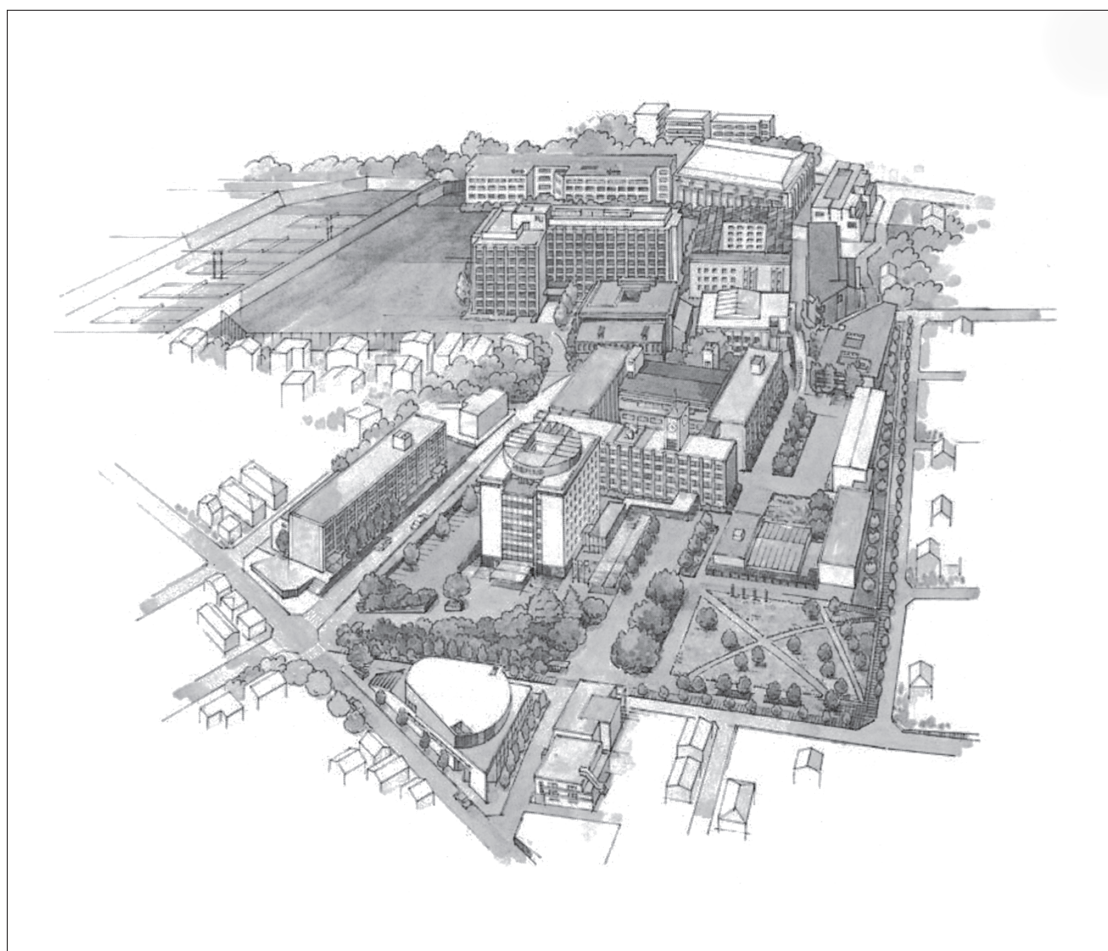
本書は、アメリカ黒人、在日コリアンがいかに異なった立場からアメリカ及び日本の「市民権」概念の書き換えを行ったかを、ロスアンジェルスと川崎の事例から、同時代的に考察するものである。リンドン・Ｂ・ジョンソン政権下で行われた「貧困との戦い」の中心を成し、「貧困層」の参加を目標として掲げたコミュニティ活動事業（CAP）を、CAP の影響下で考案、実施された日本の「モデル・コミュニティ事業」と比較した。そして、米国及び日本政府が行ったそれぞれの「コミュニティ」事業に対して、ロスアンジェルスと川崎の在日の活動家がいかにオルタナティブな「コミュニティ」及び「福祉」像を提供したのかを考察した。アメリカの福祉国家の内側から貧困、労働、福祉をめぐる問題に取り組み、「住民参加」を政治参加の機会へ転換させた黒人側の戦略と、日本の福祉国家の外側から「市民」の定義を問い直し、国籍条項撤廃及び福祉権をもとめた運動へつなげた在日コリアンの活動家の戦略を比較し、二十世紀の福祉国家史／都市史／黒人、在日の運動史の文脈に位置づけた。その際、在日の活動家がアメリカの黒人解放運動と神学をいかに受容し、「翻訳」し、自らの運動の糧としたのかを分析することで、両運動が連結し、国境を越えて展開する過程を詳らかにした。

(土屋和代)

神奈川大学 人文学研究所

The Institute for Humanities Research

Kanagawa University



◆人文学研究所の事業

人文学研究所は1963年、人文学研究領域相互の活発な研究活動を支援することを目的に神奈川大学の附属研究機関として設立されました。

人文学研究所の主な活動はつぎの4つです。

- (1) 人文学に関する研究および調査
- (2) 研究資料の収集および整理
- (3) 研究及び調査成果の発表のための刊行物の発行
- (4) シンポジウムや講演会の開催

人文学研究所は人文学系の各種テーマによる共同研究グループの共同研究を大きな柱に、様々なシンポジウム・講演会を開催し、また、『神奈川大学人文学研究叢書』を刊行するなど多彩な活動を行っています。

◆人文学研究所の研究活動

人文学研究所の基本的な活動は、共同研究グループによる調査・研究活動と国外研究機関との学術交流の二つに分けることができます。本研究所創設以来、活動を展開した共同研究グループは総数30グループ以上を数えます。

人文学研究所共同研究グループ一覧

2014年度

No.	名 称	研究テーマ
1	日中関係史	近代以降現在までの日中関係の諸問題
2	色彩と文化Ⅲ	色彩のグローバリゼーションとローカリゼーション
3	言語変異研究	言語の多様性、言語と社会、文化とのかかわりを研究する。
4	ブランゲ文庫研究会	神奈川大学図書館が所蔵するブランゲ文庫の研究を行う。
5	活字文化の研究	1. 活字を通じた日本語教育と異文化理解（国際） 2. 活字文化普及のための教育・啓発活動（教育） 3. 活字文化普及による社会環境への影響（社会）
6	言語政策の研究	東アジアにおける自国語を対象とした言語政策研究。移民先進国における言語政策。
7	〈身体〉とジェンダー	近代以降、大きく転換した身体表象の変容と、その文化的・社会的メカニズムについて、なかでも特にジェンダーという視点に着目しながら多様なテキストをもとに考察する。
8	自然観の東西比較	1. 神と自然についての歴史的・思想史的な東西比較 2. 風土についての比較文化論的考察
9	近代都市の表象	夢と幻滅を伴いつつ近代化し、快適さとともにさまざまな問題を生み出してきた欧米・東アジアの都市について、どのような表象が、どのような諸力と関連しながら提示されてきたかを検証する。
10	越境する比較文化	比較文学・文化の方法論を用いた研究を行う。
11	ヒト身体の文化的起源	人間の身体を系統的に遡り、その根源を考察することで、身体が持つ機能的な意義を検討する。
12	帝国とナショナリズムの言説空間	東アジア、東南アジア、ラテンアメリカ、アフリカ地域におけるイギリス、アメリカ、日本の帝国支配とナショナリズムの交錯の様相を把握しつつ、それらが今日においてどのように語られてきたのかについて具体的に考察する。
13	NCH新聞研究会	神奈川大学が所蔵するNCH（North China Herald）の新聞（ONLINE版）の日本、中国、韓国、東南アジア諸国に関連する新聞記事の研究。

人文学研究所 2014 年度講演会

敬称略

No.	日時	講演者	テーマ	所属	場所
1	4 月 11 日 (金)	フランソワーズ・ラヴォカ	Time Paradoxes and the Destruction of Worlds	ソルボンヌ大学	17-215
2		ペーター・ハイドウ	Magic in Ancient Rome and in Roman Literature	ハンガリー科学アカデミー	
3	5 月 8 日 (木)	王 曉秋氏	晩清中国海外遊歴使研究	北京大学教授	20-433
4	6 月 12 日 (木)	シエルバンアレキサンダー	ルーマニアの観光とインバウンド政策	ルーマニア観光商務局	20-312
5	6 月 27 日 (金)	篠山淳子	発達障害を抱えている人たちとのよりよい交流を目指して	NOP 法人あではで神奈川	20-119
6	7 月 17 日 (木)	中西大介	ワールドカップと日本の未来	J リーグ常務理事	セレストホール
7	7 月 22 日 (火)	スタマティナ・ディマコプル	パリのアメリカ人たち——外国在住・共通性・差異——	アテネ大学英文学科准教授	20-417A
8	7 月 24 日 (木)	太田正治	イベントのプロデュースとその運営——東京五輪招致や東京マラソン復興事業等から見えるもの——	日本イベント産業振興協会専務理事	23-205
9	7 月 29 日 (火)	泉 美知子	大革命後の宗教建築の表象：19 世紀フランスの文化財保護を通して	国学院大学非常勤講師	20-417A
10	12 月 8 日 (月)	堀見葉子	色彩を活かす仕事：カラーリストからの提言	フリーカラーリスト	11-25

学術交流とシンポジウムの開催 (2001 年以降)

◇神奈川大学人文学研究所・人文学会共催

「21 世紀——アジアの座標軸を求めてⅡ——戦後補償と在外外国人の人権」：神奈川大学・横浜キャンパス 2001 年 10 月 4 日

◇神奈川大学人文学研究所・浙江大学日本文化研究所共催

「第 11 回日中学術交流シンポジウム——歴史と文学の境界」：神奈川大学・横浜キャンパス 2001 年 11 月 5 日～6 日

◇神奈川大学人文学研究所・人文学会共催

「東アジア近代史とラジオ放送の誕生」：神奈川大学・横浜キャンパス 2001 年 11 月 24 日

◇神奈川大学人文学研究所・人文学会共催

「21 世紀——マルクス歴史学は死んだのか」：神奈川大学・横浜キャンパス 2001 年 12 月 1 日

◇台湾・香港・上海の大学・研究機関との意見交換 2002 年 11 月 5 日～11 日

◇神奈川大学人文学研究所・人文学会共催

「アジアのポップカルチャーと日本」：神奈川大学・横浜キャンパス 2003 年 11 月 2 日

◇浙江大学日本文化研究所・中国日本史学会主催

国際シンポジウム「道教と日本文化」：中国浙江省杭州市内 2004 年 11 月 5 日～6 日

◇神奈川大学人文学研究所・人文学会共催

国際シンポジウム「世界から見た日本文化——多文化共生社会の構築のために——」：神奈川大学・横浜キャンパス 2005 年 11 月 11 日, 12 日

◇神奈川大学人文学研究所主催

国際シンポジウム「日本の文化変容と異文化——近世から近代へ」：神奈川大学・横浜キャンパス 2007 年 11 月 17 日

◇神奈川大学人文学研究所主催

国際シンポジウム「表象としての〈日本〉近代ヨーロッパの場合——神奈川大学・ヴェネツィア大学
学術交流の現場から——」：神奈川大学・横浜キャンパス 2009年10月3日

◇神奈川大学人文学研究所主催

国際シンポジウム「ヴィジュアルとグラフィックの語り」：神奈川大学・横浜キャンパス 2010年8
月24日

◇神奈川大学人文学研究所主催

国際シンポジウム「越境する比較文化」：神奈川大学・横浜キャンパス 2011年6月11日

◇神奈川大学人文学研究所主催

国際シンポジウム「スタニスワフ・レムについて」：神奈川大学・横浜キャンパス 2011年6月18日

◇神奈川大学人文学研究所主催

国際シンポジウム「Reform, Reuse and Recycle: Comparative Literature Perspectives on Adaptation」
(リフォーム, リユーズ, リサイクル: 比較文学文の視点からみる改作)：神奈川大学・横浜キャンパス
2012年6月16日

◇神奈川大学人文学研究所主催

国際シンポジウム「東アジアの日本研究の現状と未来」：神奈川大学・横浜キャンパス 2012年12月1日

◇神奈川大学主催

国際シンポジウム「Transform, Transfigure, Transcend: Translation in Cultural Studies」
(変形, 変容, 超越——カルチュラル・スタディーズと翻訳)：神奈川大学・横浜キャンパス 2013
年6月15日

◇神奈川大学人文学研究所主催

学術講演会前期「人文学研究所50周年記念」：神奈川大学・横浜キャンパス 2013年7月24日

◇神奈川大学人文学研究所主催

学術講演会後期「人文学研究所50周年記念」：神奈川大学・横浜キャンパス 2013年12月12日

◇神奈川大学主催

国際シンポジウム「Representations of Death across Cultures」
(異文化における死の表象)：神奈川大学・横浜キャンパス 2014年6月7日

人文学研究所共同研究グループ一覧

No	名 称	研究テーマ	活 動 計 画	代表者	メンバー	人数	2014 年度
							叢書
1	日中間系史	近代以降現在までの日中間関係の諸問題	1. メンバー各自の関心に基づく研究会の開催 2. 学外研究者の講演、研究交流 3. 日・中相互の留学に関する調査研究 4. 在日華僑に関する調査研究 5. 中国・朝鮮における旧日本租界に関する調査研究	大里	大里・中島・松本・日高・山口(建)・鈴木(陽)・彭・孫・村井(寛)・朱・(非) 吉川・楊・呉・(学外) 王・見城・周・劉	17	2014 年度
2	色彩と文化 Ⅲ	色彩のグローバル化とローカリゼーション	1. 世界の色の記号——自然・言語・文化の諸相—— 2. 色彩の倫理と色彩の地理学 3. 禁色の研究	三星	三星・尹(亨)・堤・彭・新木・久田・(宮) 加藤・(理) 長・(経) 田島・(非) 畑田・高・車(香)・(学外) 山本・車(貞)・林	15	2015 年 検討中
3	言語変異研究	言語の多様性、言語と社会、文化とのかわり合いを研究する。	1. 言語景観と言語変異 2. 言語政策と言語変異 3. 言語教育と言語変異 4. 地域文化と言語変異	彭	彭・松村・加藤・(非) 鈴木(進)・陶	5	無
4	ブラング文庫研究会	神奈川大学図書館が所蔵するブラング文庫資料の研究を行う。	1. 2014 年 4 月 例会実施 2. 2014 年 7 月 北海道大学にて研究会実施 3. 2014 年 12 月 京都大学にて研究会を実施 4. 2015 年 2 月 17 日 例会を予定	孫	孫・尹(健)・大里・(宮) 泉水・(学外) 阿部・小林	6	2015 年 検討中
5	活字文化の研究	1. 活字を通じた日本語教育と異文化理解(国際) 2. 活字文化普及のための教育・啓発活動(教育) 3. 活字文化普及による社会環境への影響(社会)	1. 研究テーマに即した調査・研究の実施 2. 研究会の開催	松本	松本・新木・駒走・小松原・坪井・間山・尹(亨)・高木・(非) 和美	9	無
6	言語政策の研究	東アジアにおける自国語を対象とした言語研究。移民先進国の言語政策研究。	1. 研究テーマに即した調査・研究の実施。 2. 研究会、講演会の実施。	富谷	富谷・彭・堤・アリン・細田・横倉	6	無
7	〈身体〉とジェンダー	近代以降、大きく転換した身体表象の変容と、その文化的・社会的メカニズムについて、なかでも特にジェンダーという視点に着目しながら多様なテクニストをもとに考察する。	1. 研究会、講演会などにより、テーマに関する共通認識を深める。 2. 研究成果を積み上げ2年以内に叢書としてまとめる。	小松原	小松原・山口(ヨ)・笠間・村井(ま)・ラットクリフ・土屋・熊谷・ウエルカー・	8	2015 年 検討中
8	自然観の東西比較	1. 神と自然についての歴史的・思想的な比較研究 2. 講演会の開催(12月予定)	1. 研究会の開催(10月予定) 2. 風土についての比較文化論的研究	伊坂	伊坂・上原・小熊・坪井・鳥越・前田・村井(ま)・山本	7	2017 年 検討中
9	近代都市の表象	夢と幻滅を伴いつつ近代化し、快適さとともにさまざまな問題を生み出してきた欧米・東アジアの都市について、どのような表象が、どのような諸力と関連しながら提示されてきたかを検証する。	研究会などにより認識を深め、近い将来に叢書出版することを目指す。	鳥越	鳥越・熊谷・小松原・鈴木(陽)・土屋・日高・平井・村井(寛)・山口(ヨ)	9	無
10	越境する比較文化	比較文学・文化の方法論を用いた研究を行う	毎年6月に国際シンポジウムを開催し、ワークショップの活動の中で研究論文集の計画を練る。	ラットクリフ	ラットクリフ・村井(ま)・ブッヘンベルグ・(非) 前島	4	検討中

11	ヒト身体の文化的起源	人間の身体を系統的に測り、その根源を考察することで、身体が持つ機能的な意義を検討する。	研究テーマに関連した調査・研究を継続実施する。	衣笠	衣笠・太田・宮崎・山下・〔非〕鈴木・塩田・大金	7	無
12	帝国とナショナルリズムの言説空間	東アジア、東南アジア、ラテンアメリカ、アフリカ地域におけるイギリス、アメリカ、日本の帝国支配とナショナルリズムの交錯の様相を把握しつつ、それが今日においてどのような形で語られているのかについて具体的に考察する。	2014～16年度神奈川大学共同奨励研究助成を受けている。年2回の定例研究会を開催し、2015年3月に箱根保養所においてセミナー合宿を行う。	永野	永野・村井〔寛〕・土屋・久田・小馬・梅崎・〔営〕泉水・〔経〕高城・〔名〕後藤	10	2017年
13	NCH 新聞研究会	神奈川大学が所蔵するNCH (North China Herald) の新聞 (ONLINE版) の日本、中国、韓国、東南アジア諸国に関連する新聞記事の研究	1. NCH 関連の研究会開催 2. NCH 関連の資料調査 (上海、ロンドン) 3. NCH の編訳会の開催	岩本	岩本・村井〔寛〕・孫・土屋・菊池・山本・〔営〕泉水・〔非〕渡辺	8	無

〔名〕名誉教授 〔非〕非常勤講師 〔学外〕学外研究者

神奈川大学人文学研究所叢書一覧

人文学研究所

No.	年度	タ イ ト ル	出 版 社
1	1983	悲劇——その諸相と人間観——	神奈川新聞社
2	1984	日本文化——その自覚のための試論——	神奈川新聞社
3	1985	続 日本文化——伝統と近代化の再検討——	神奈川新聞社
4	1986	民族と国家——国際関係の視点から——	神奈川新聞社
5	1987	「近代」の再検討——ポスト・モダンの視点から——	神奈川新聞社
6	1988	いま、日本と中国を考える——日中比較文化論——	神奈川新聞社
7	1990	「民族と国家」の諸問題	神奈川新聞社
8	1991	ロマン主義の諸相	神奈川新聞社
9	1991	インディアスの迷宮	勁 草 書 房
10	1992	聖と俗のドラマ	勁 草 書 房
11	1994	秘密社会と国家	勁 草 書 房
12	1995	ヨーロッパの都市と思想	勁 草 書 房
13	1996	国家とエスニシティ——西欧世界から非西欧世界へ——	勁 草 書 房
14	1997	芸能と祭祀	勁 草 書 房
15	1998	笑いのコスモロジー	勁 草 書 房
16	1999	ロマン主義のヨーロッパ	勁 草 書 房
17	2000	ジェンダー・ポリティクスのゆくえ	勁 草 書 房
18	2001	日中文化論集	勁 草 書 房
19	2002	歴史と文化の境界	勁 草 書 房
20	2003	「明六雑誌」とその周辺——西洋文化の受容・思想と言語——	御茶の水書房
21	2004	新しい文化のかたち——言語・思想・くらし——	御茶の水書房
22	2005	中国における日本租界——重慶・漢口・杭州・上海——	御茶の水書房
23	2006	世界から見た日本文化——多文化共生社会の構築のために——	御茶の水書房
24	2007	在日外国人と日本社会のグローバル化—神奈川県横浜市を中心に	御茶の水書房
25	2008	表象としての日本——移動と越境の文化学——	御茶の水書房
26	2009	ジェンダー・ポリティクスを読む——表象と実践のあいだ——	御茶の水書房
27	2009	中国・朝鮮における租界の歴史と建築遺産	御茶の水書房
28	2010	世界の色の記号——自然・言語・文化の諸相——	御茶の水書房
29	2011	〈悪女〉と〈良女〉の身体表象	青 弓 社
30	2011	グローバル化の中の日本文化	御茶の水書房
31	2012	植民地近代性の国際比較——アジア・アフリカ・ラテンアメリカの歴史経験——	御茶の水書房
32	2012	戦後日本と中国・朝鮮——ブランゲ文庫を一つの手がかりとして——	研 文 出 版
33	2013	色彩の快：その心理と倫理	御茶の水書房
34	2013	先住民運動と多民族国家——エクアドルの事例を中心に——	御茶の水書房